

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	観光交流課
施策	24	観光の振興	評価 責任者	曾根田 雅彦 内線 3720
小施策	24-2	観光地域づくりと滞在型観光の推進	評価 シート 作成者	真田 伸 内線 3721

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
北陸新幹線や北海道新幹線の開業による、観光交流の一層の活発化が期待される中、本市を訪れる多くの観光客に満足してもらえるよう、特産品や歴史文化などの地域資源を生かした観光地域づくりとともに、世界遺産の「平泉の文化遺産」や「釜石・橋野鉄鉱山」、十和田八幡平国立公園、三陸復興国立公園など、県内・広域の観光資源と連携した観光宣伝や滞在型・周遊型観光への取組を推進する必要がある。	北東北の交通の結節点としての優位性を生かすとともに、盛岡の歴史、文化、先人、まち並みなど、地域資源を最大限に活用した観光地域づくりやおもてなしの向上を進めるほか、まちなか観光の充実やMICE(マイス)誘致、広域連携による滞在型・周遊型観光など、盛岡ファンづくりに向けた取組を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
国内外の人	多くの人が、盛岡の魅力を知る。盛岡を訪れる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和元年度以降)
指標① 宿泊観光客数				成果点	成果の要因分析	
当初値 (H25)	98	R1目標値	110	R6目標値	120	<p>★ 広域連携による観光プロモーションを強化し、エリアの知名度・認知度の向上を図っていく。</p> <p>★ 関係者間の連携を図り、地域資源を最大限に活用した観光地域づくりを推進していく。</p> <p>★ まちなか観光の充実を図るとともに、宣伝誘客に向けた取組を推進していく。</p> <p>☆1 道の駅設置事業について、基本計画を策定し、整備スケジュールに基づき着実に事業を進捗させていく。</p>
				<p>・観光客入込数は中間目標値(500万人回)を達成し、交流人口が拡大した。</p> <p>・外国人観光客入込数が1.6倍(前年度比)に増加した。</p>	<p>・盛岡デーや各種物産展等の開催を通じた誘客宣伝、特産品PRが、盛岡の認知度向上や目的地としての選択につながったことによるものと考えられる。</p> <p>・祭り・イベント等の主催団体への支援や、年間を通じて祭り・イベントの充実を図ったことによるものと考えられる。</p>	
<p>単位: 万人泊 目指す方向: ↗</p>				問題点	問題の要因分析	
<p>・交流人口の増加に対し、宿泊者数が伸びていない。</p>				<p>・エリアの知名度・認知度が十分ではないこと。</p> <p>・滞在型・周遊型観光を推進する中で、盛岡泊のインセンティブを十分には発揮できていないこと。</p>		
指標② コンベンション開催支援件数				成果点	成果の要因分析	
当初値 (H25)	101	R1目標値	140	R6目標値	150	<p>★ 関係団体や民間事業者等と連携して誘致を推進していく。</p> <p>★ 地域資源を活用した宣伝誘致の取組を推進していく。</p> <p>★ 交付実績や関係団体の要望等を踏まえながら、助成制度の利用促進とコンベンション誘致拡大を推進していく。</p>
				<p>・盛岡でのコンベンション開催に対し、75件(参加者数 32,241人)の支援を行った。</p> <p>・盛岡市内を主会場とする一定規模以上の国際会議や全国大会等に対し、開催費用の一部助成を行った。(18件 8,300,000円)</p>	<p>・関係団体や民間事業者等と連携した誘致推進の取組が、盛岡でのコンベンション開催につながったものと考えられる。</p>	
<p>単位: 件 目指す方向: ↗</p>				問題点	問題の要因分析	
<p>・開催支援件数は減少傾向の状況にある。</p>				<p>・復興支援を目的とした本市でのコンベンション開催が落ち着きをみせたことが考えられる。</p> <p>・助成対象となる一定規模以上のコンベンション等については、開催年の5~6年前には開催地決定の準備が進められていること。</p>		